

次代への軌跡

- series.129 -

【 マーフシステム 】

企業には、P/L（損益計算書）やB/S（貸借対照表）といった財務諸表の作成が義務付けられている。

「しかし、現行の会計ルールでは、実際の経営状況は分かりづらい。経営者が経営のために役立てられるものにはなっていない」

こう話すのは、マーフシステムの稲垣保社長だ。稲垣社長は、稲垣税務会計事務所と資金管理会計研究所を運営する税理士でもある。

「お金は大きく2つに色分けできる。『もうけのお金』と『もうけ以外のお金』だ」と話す稲垣社長。

1万円で購入した商品を1万5000円で売り、銀行に入金されたとする。5000円が「もうけのお金」で、1万円は「もうけ以外のお金」だ。銀行の現預金残高は1万5000円となるが、実際は2つに色分けできる。

さらに、「もうけ以外のお金」の仕入れ値は、自己資金で払い済みか、借入金で払っているのか、仕入れ先からの掛け買いかで分類できる。今後出て行くのか残るのか違いが出る。

稲垣社長は、「個人の預金なら多くの人が意識している発想。だが、企業の場合、お金の分類が複雑なの

でこの意識が抜けてしまう。しかも現行の財務諸表には、この要素がすぐに分かる表記が無い」と説明する。ルールでなく経営に役立つ会計をリアルに自社把握「資金管理会計」

同社では、いわば新たな財務諸表として、顧客先に独自の「資金管理表」を作る。自社が「もうけのお金」で回っているのか否か。この表で常に確認することで財務強化ができ、現実の経営状況が「見える化」するので良い意味で緊張感が出るという。

こうした自社のリアルな資金状況を把握できるようにした会計を、同社では「資金管理会計」と呼ぶ。そして、これを活用して経営をコンサルティングする存在として、稲垣社長は自身を「財經コンサルタント」と名付けている。「財務主導型経営を導くから」（稲垣社長）だ。

「その時点で現預金があるだけで、それが借入金の返済に必要ななどの『もうけ以外のお金』ばかりなら、財務主導型経営ではない。黒字倒産の『黒字』も、未回収の代金をP/Lでは黒字と表現するルールがあることで生まれる表現。この現状を是正できれば」と稲垣社長は意気込む。



稲垣 保 社長

住所＝東京都江東区越中島
2-13-9

☎03-5639-6841

ホームページ＝

<http://www.mafsm.jp>